



秋耕・土づくりの重要性を再確認！
来年の稲作に向けて“今”から準備を！

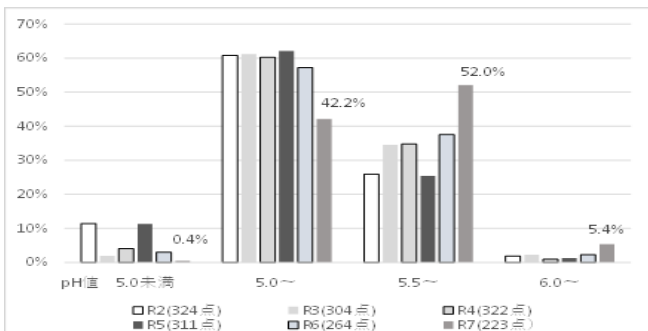
今年産米の収量は一穂粒数の減少により平年並からやや少なく、くず米は多い状況となっております。品質面では胴割粒や充実度不足による落等が一部で散見されますが一等米比率は96%（10月2日現在）と良好です。

収穫終了と同時に次年作の始まりとなります。近年の夏場の高温・乾燥・長雨による日照不足など気象変動の影響を最小限に抑えるため、また、「品質」・「食味」・「収量」のすべて揃った米の生産を目標に**秋耕・土づくりを継続的に実施しましょう。**

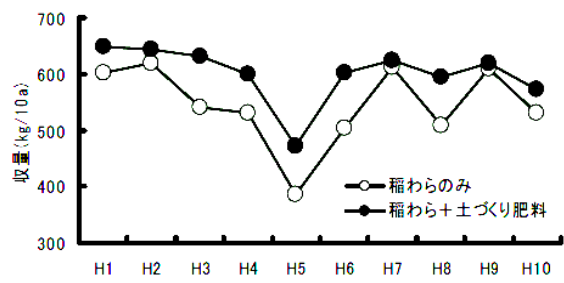
つや姫圃場の土壌pHの分析結果では、適正值まで回復傾向にあります。しかし、管内全体としてはpHがまだまだ低いと推測されるため、**土壌pHの適正化による底上げが急務となります。**土づくり資材の施用により酸性化した土壌の改善（地力の回復・向上）を図り、土壌pHの年間0.1以上アップを目標に土壌のメンテナンスを実施しましょう。

管内の現況：土壌pH5.57（平均）

→ 適正值：土壌pH5.5～6.0



「つや姫」圃場の土壌pH分析結果(酒田・飽海)



土づくり肥料の施用により収量低下が緩和される
(水田農試)

○ **pHは土づくりをししないと低下します！**

pHが低下すると ⇒リン酸の肥料効率が低下
⇒稲わらを腐熟させる微生物の働きが鈍くなる

※10月JAデーにてR9年用生産資材予約注文書を配布しておりますのでご確認下さい。なお、資材消毒剤「イチバン」の配布は致しませんので各自予約・注文下さるようお願い致します。

技、其の一 早めの秋耕と稲わら腐熟促進資材の活用を！

近年、田ワキが原因で初期生育が停滞している圃場が散見されます。田ワキを軽減するには、**稲わらや有機物の腐熟促進が重要**です。**実施時期が早く、気温が高いほど腐熟・分解が進みます**ので、早めの秋耕を実施しましょう！（分解には平均気温 15℃以上が必要です。）また、下記腐熟促進資材を併用することで一層効果が高まりますので積極的に活用しましょう。

- 秋の浅耕（5cm程度）**…**浅い耕起で十分**ですので稲わらを土壌と混和し、**土壌微生物の働きを高め**、腐熟・分解を促進しましょう。
- 稲わら腐熟促進資材（秋散布）**…田ワキの抑制に効果的です。

資材名	アグリ革命	ワラ分解キング	石灰窒素（粒状）
使用量 (税込参考価格)	2kg／10 a (@3,223 円/2 kg)	10kg／10 a (@2,651円/10kg)	10kg／10 a (@6,072円/20kg)
使用時期	・原則、秋施用 ・春施用では田植え 1ヵ月前までに散布	・原則、秋施用 ・春施用では代かき 4 5日前までに散布	・秋施用のみ ・散布は 10 月下旬まで
備考	・散布のみでもよいが、 稲わらをすき込むと より効果的	・低温時でも稲わら分 解に効果発揮 ・散布後、速やかに すき込む	・つや姫圃場に施用す る場合は、地力が高 い圃場等には控える

※降雨後など、稲わらが湿った状態に散布するとより効果的です。
※特別栽培米に使用する場合是最寄りの営農課に事前にご確認ください。

技、其の二 積極的な土づくりを実施！

土づくりを基本とした米づくりが大切です。特に「つや姫」はトップブランド米として品質・食味の安定は必須です。当JAでは「**土づくり支援事業（主食米出荷実績×300 円/俵（10 俵/10 a が上限）**」を展開中です。積極的にご活用ください。（但し、主食用うるち米全圃場に散布した場合は、全出荷量に対してお支払い致します）

○**土づくり資材…pH 矯正とケイ酸の補充**

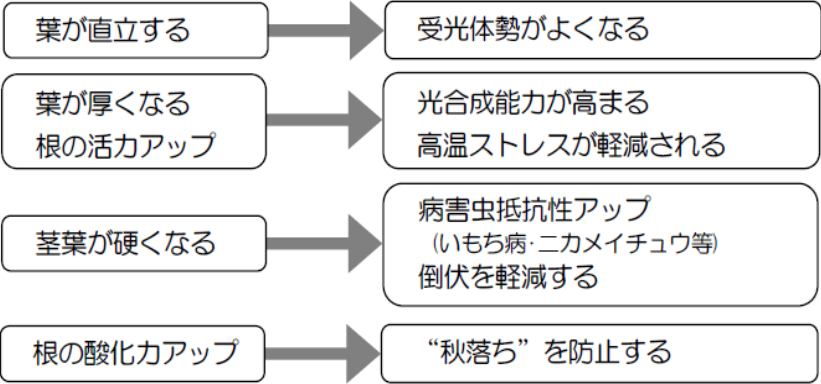
資材名	農力アップ	てんろ石灰(粗粒)	カキテツ	混合りん肥新3号
使用量 (税込参考価格)	60kg／10 a (@1,870円/20kg)	100kg／10 a (@1,353円/20kg)	45kg／10 a (@1,881円/15kg)	100kg／10 a (@1,606円/20kg)
使用時期	・原則、秋施用（ 稲刈り後、早めに施用することで腐熟促進に繋がります ） ・春施用の場合は耕起前までに散布			
備考	・ケイ酸(20%)、苦土、微量元素を配合した新総合土づくり肥料	・ケイ酸（14%程度）や微量元素を含むアルカリ資材	・ケイ酸(11%)、苦土を含むアルカリ資材 ※牡蠣殻が硫化水素を吸着し、ガス沸きを軽減	・リン酸、苦土、ケイ酸（28%）を含んだ土づくり肥料

・ケイ酸以外の成分の効果（pH 矯正、稲わら腐熟促進など）や、作業効率から秋施用がベスト！
（裏面に続く）

効果的なケイ酸施用【基本施用《収穫後(秋)または融雪後～基肥施用時(春)》】

ケイ酸成分で 30kg/10a を目標に「少しずつでも」「隔年でも」施用することが大切！
《ケイ酸の効果》

水稻は、窒素の10倍ものケイ酸を吸収するケイ酸要求量がきわめて高い植物です。ケイ酸の施用は以下のような効果があり、気象変動時にはより収量・品質に差が表れます。



技、其の三 大豆の刈取り適期を逃さない！

成熟期後 20 日を過ぎると、しわ粒が発生しやすくなり、急激に品質が低下します。
高品質な大豆を収穫できるよう適期刈取りを徹底しましょう。

大豆収穫の目安（コンバイン収穫）

品 種	開花期	成熟期	刈取り適期
エンレイ	7/25頃	10/7頃	10/14～27
里のほほえみ	7/29頃	10/17頃	10/24～11/6

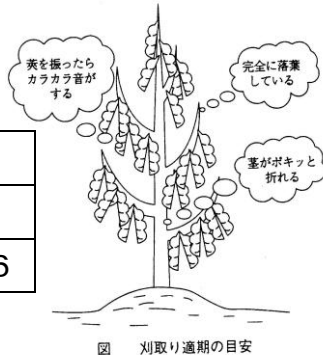


図 刈取り適期の目安

★ コンバイン収穫のポイント

- ・コンバイン収穫の適期は子実水分が 18%以下で、おおよそ成熟期後 7 日以降です。
雑草や青立株は汚損粒発生の原因となるので、刈取り前に必ず抜き取りましょう！！
- ・刈取り時は土による汚損が発生しないよう刈高に注意しましょう。
- ・収穫した大豆については、施設への搬入（出荷）までの期間、変質等に十分注意し、一時保管をお願い致します。

【農業に関する野焼き行為への注意・配慮のお願い！】

例年、春と秋に、野焼きの煙や臭いによる苦情が多く寄せられます。野焼きは原則禁止されていますが、農業を営むためにやむを得ず行われるもみ殻の焼却（燐炭作り）等は例外として認められています。その際は事前に近くの消防署へ連絡し、火災に留意するとともに、場所や時間帯、煙の量、風の向き・強さ等に注意のうえ、近隣住人の迷惑にならないよう十分配慮し、適切な対応をお願いします。ただし、住宅の密集地・隣接地の場合は、行政指導の対象となります。

柿の収穫真っただ中

生育状況:生育は順調に進んでおり、果実肥大は平年より大きく長径基準で、刀根早生については平年比約 107%、平核無で平年比約 101%となっています。9 月が冷涼に推移し、日中と朝晩の温度差があるため、着色が平年以上に進んでおり、カラーチャートで、刀根早生果頂部 5.4、へた部 3.3、平核無で果頂部 3.2、へた部 1.8 となっております。



一部園地では、落葉病による被害が見られています。落葉病の疑いがある場合はお近くの園芸センターにご相談ください。

気象対応:近年大雨等異常気象が多発しております。

天気予報に十分注意しましょう。

また、雹害対策の為の防雹ネットを早めに設置しましょう。

収穫作業:出荷基準に基づき収穫作業を行いましょう。



高所作業等は安全に留意し、無理な体勢での収穫や果実の過積載での運搬は事故の要因となるので行わないでください。
脱渋中の汚損果防止の為、果実の取り扱いには十分注意しましょう。

（降雨時に収穫した場合は、果実に付着した水分（結露）が汚損果の原因となります。十分乾燥させてから出荷しましょう）

その他:近年特に早生種において、取引先からの軟果クレームが発生しております。早生種については、平核無よりも軟果しやすい傾向があるため、より一層の青もぎが推奨されます。また木の中でも、異常に色回りが早い木や枝が見受けられます。そのように異常に色回りが早い場合は、軟果になる可能性が非常に高く、北海道等遠方地での販売が困難であるため、選果場等に持ち込まずに自家脱渋するようにお願いいたします。